

生命保険事業のパイオニアとして いつまでも変わらぬ安心をお届けします。

私たちは、わが国最古の歴史を持つ生命保険会社として、
長年にわたり「お客さまとの絆」を大切にまいりました。
これからも「お客さまを大切にする会社」として、
さらなる健全性の向上と安定的な成長の実現に努めてまいります。

ソルベンシー・マージン比率

詳しくは P.3 へ

予測を超えたリスクにも対応できる
支払余力を確保しています。

1,196.8%

実質純資産額

詳しくは P.3 へ

健全な経営を維持していくための
純資産額を確保しています。

3兆5,979億円

含み損益(一般勘定資産全体)

詳しくは P.4 へ

堅実な資産内容で1兆円を大幅に
上回る含み益を確保しています。

1兆3,589億円

保険料等収入

詳しくは P.5 へ

みなさまにご支持いただき
前年同期比37.4%の増収となりました。

2兆4,770億円

基礎利益

詳しくは P.6 へ

上半期の基礎利益は
前年同期比14.3%の増益となりました。

1,873億円

[格付]

健全な財務内容により、
格付会社から高い評価を得ています。

「格付」とは、会社の収益力・財務状況などを、さまざまな角度から総合的に評価し、
わかりやすい記号で表わしたものです。

(平成23年11月1日時点)

格付投資情報センター
(R&I)

AA-

保険金支払能力

日本格付研究所
(JCR)

A+

保険金支払能力格付

スタンダード&プアーズ
(S&P)

A

保険財務力格付け

*「保険金支払能力」は、保険会社の保険債務が約定どおりに履行される確実性についての意見です。「保険財務力格付け」は、保険契約の諸条件に従って支払いを行なう能力に関して保険会社の財務内容を評価した意見です。

*左記の格付は、当社が依頼して取得したものです。

*記載の格付会社は、金融庁の登録を受けた信用格付業者です。

*格付は、個別の保険契約の加入・解約・継続を推奨するものではありません。

*格付は、左記時点での格付会社の意見であり、将来的に変更・保留・撤回されることがあります。

「お客さまを大切にする会社」として、確かな安心をお届けします。

ソルベンシー・マージン比率 ▶ 1,196.8%

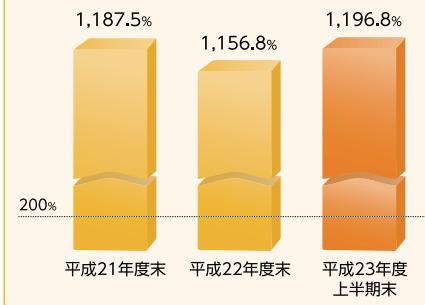
予測を超えたリスクにも対応できる
支払余力を確保しています。

ソルベンシー・マージン比率とは、株価の暴落など通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。この数値が200%を下回った場合は、監督当局による業務改善命令等の対象となります。平成23年度上半期末のソルベンシー・マージン比率は1,196.8%となっています。

なお、平成23年度末から、ソルベンシー・マージン比率の算出に用いるソルベンシー・マージン総額およびリスクの合計額の算出基準が変更となります。新基準ではマージンへの算入およびリスク測定

の精緻化・厳格化が図られています。新基準を適用した場合の平成23年度上半期末のソルベンシー・マージン比率は725.2%であり、引き続き200%を超える水準となっています。

ソルベンシー・マージン比率の推移



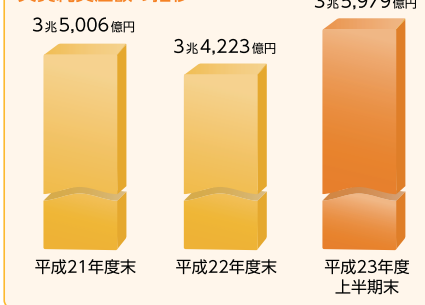
実質純資産額 ▶ 3兆5,979億円

健全な経営を維持していくための
純資産額を確保しています。

実質純資産額とは、有価証券や不動産等を時価評価した資産から、ご契約にかかわる各種負債等を差し引いたものであり、保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の一つです。

平成23年度上半期末の実質純資産額は3兆5,979億円で、一般勘定資産に対する比率は13.2%となっています。

実質純資産額の推移



含み損益(一般勘定資産全体) ▶ 1兆3,589億円

堅実な資産内容で1兆円を
大幅に上回る含み益を確保しています。

含み損益とは、保有している資産の時価と帳簿価額との差額を指し、保険会社の企業体力を表わすものの一つです。平成23年度上半期末は、一般勘定資産全体で1兆3,589億円(前年度末差820億円増)の含み益を確保しています。

(平成23年度上半期末)

一般勘定資産全体の含み損益	1兆3,589億円
うち時価のある有価証券※1	1兆984億円
うち公社債	7,346億円
うち株式	4,067億円
うち外国証券	△562億円
うち土地※2	2,772億円

※1 有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。

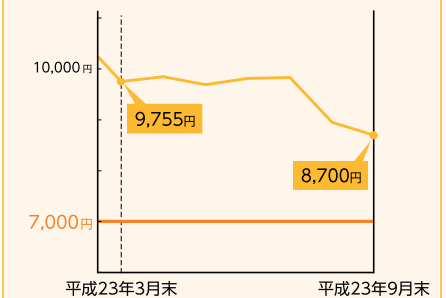
※2 土地には借地権を含んでいます。

国内株式含み損益ゼロ水準 7,000円程度

平成23年度上半期末における当社が保有する株式の含み損益がゼロとなる水準は、日経平均株価で7,000円程度となっています。

*仮に当社ポートフォリオが日経平均株価にフル連動するとした場合

日経平均株価の推移

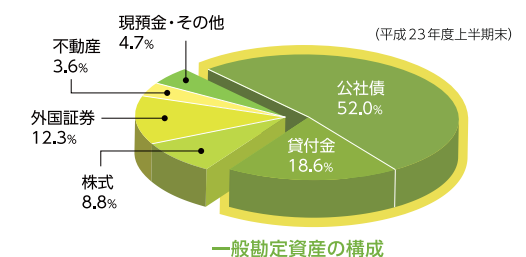


資産の構成

長期・安定的な収益を確保するため、
公社債や貸付金などを中心に運用しています。

運用にあたっては、公社債や貸付金といった安定収益資産を中心に配分を行ない、お客さまへのお支払いに備えています。

引き続き、良好な運用成果の確保と資産健全性の維持・向上に努めていきます。

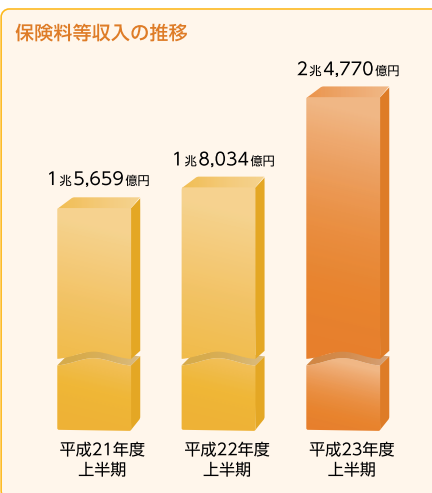


「お客さまを大切にする会社」として、確かな安心をお届けします。

保険料等収入 ▶ 2兆4,770億円

みなさまにご支持いただき
前年同期比37.4%の増収となりました。

保険料等収入とは、ご契約者から払い込まれた保険料による収益で、生命保険会社の収益の大部分を占めています。平成23年度上半期の保険料等収入は、合併以来、過去最高となる2兆4,770億円で、前年同期比37.4%の増収となりました。これからもいっそうお客さまにご満足いただける取組みを進め、安定した成長をめざします。



基礎利益 ▶ 1,873億円

上半期の基礎利益は
前年同期比14.3%の増益となりました。

基礎利益とは、保険料等収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息及び配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、生命保険会社の基礎的な期間損益の状況を表わす指標です。平成23年度上半期は逆ざやの解消等により233億円の増益となり、基礎利益は1,873億円となりました。

・基礎利益から、有価証券等の売却損益・評価損や、保険財務健全化のための臨時的な費用、税金などを加減した最終的な剰余を、事業年度末決算において定款にしたがい配当としてご契約者に還元しています。

基礎利益の内訳(三利源)

(単位：億円)

	平成21年度 上半期	平成22年度 上半期	平成23年度 上半期
基礎利益	1,345	1,639	1,873
費 差	229	190	197
危険差	1,535	1,509	1,603
利 差	△419	△60	71

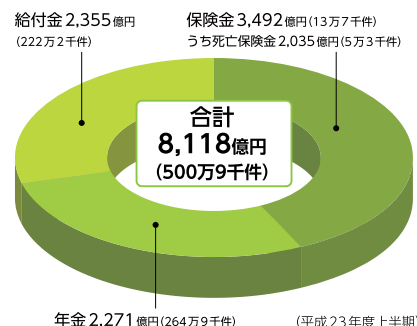
- ・費 差 保険料算定時に想定した事業費率に基づく事業費支出予定額と実際の事業費支出額との差額
- ・危険差 保険料算定時に想定した保険事故発生率に基づく保険金・給付金等支払予定額と実際の保険金・給付金等支払額との差額
- ・利 差 保険料算定時に想定した利率に基づく予定運用収益と実際の運用収益との差額(マイナスは逆ざや)

お役に立った保険金・年金・給付金

8,118億円

平成23年度上半期にお支払いした保険金・年金・給付金の合計額は8,118億円でした(1日あたりのお支払いは約44億円)。これからも確実・迅速なお支払いに努め、お客さまのお役に立てるように確かな安心をお届けします。

*給付金には、入院給付金・手術給付金のほか、ハッピーL.A.ボーナスやお祝金なども含んでいます。



当社では、お支払い業務における重層的なチェック体制やお客さまへの充実したご説明の実施等、お支払いもれやご請求案内もれない支払管理態勢を構築しています。また、「安心サービス活動」を通じて、保険金・給付金などのご請求がないかを確認する等、確かなお支払いに取り組んでいます。詳細については当社ホームページをご覧ください。

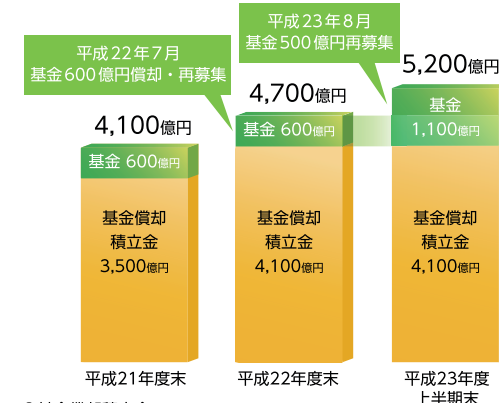
明治安田生命保険相互会社ホームページ▶▶▶<http://www.meijiyasuda.co.jp/>

基金について

基金の総額は、5,200億円となりました。

「基金」とは、株式会社の資本金に相当する性格を持つ資金で、相互会社の財産的基礎となるものです。当社では、平成23年8月に基金500億円の再募集を行っており、基金の総額(基金と基金償却積立金の合計額)は5,200億円となっています。今後も、保険会社を取り巻くさまざまなリスクに備え、お客さまの保険契約を確実に履行するために、さらに健全性の高い経営基盤の構築に取り組んでいきます。

基金・基金償却積立金の推移



●基金償却積立金 相互会社が基金を償却する場合に、保険業法の規定により積立てを義務付けられている積立金です。基金の償却額と同額の積立てが義務付けられています。